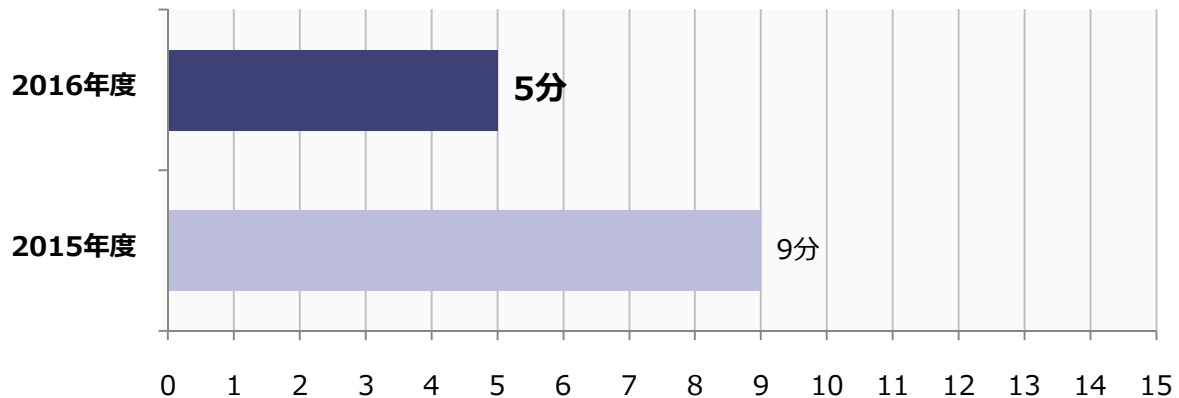


採血支援システム導入後の中央処置室採血待ち時間調査

外来診療において、患者の採血データは不可欠なものであるが、採血行為は患者の苦痛を伴いストレスとなります。またそれに伴う採血待ち時間の超過は、患者にさらなるストレスを生むとともにクレーム対象となることが多いです。

当院では2014年4月に中央処置室において採血支援システムを導入し、採血管準備や患者確認および検査依頼照合などが自動化されました。また採血台やデジタル案内板などを設置し、設備環境を一新しました。

これにより患者1人あたりの採血待ち時間短縮につなげることで患者満足度の向上を図ります。



当院値の定義・算出方法

中央処置室到着から採血開始までの平均時間

調査期間 : 2016年度 10月～11月 平日各曜日3日 (計15日間)

解説(コメント)

中央処置室において、昨年度より採血支援システムを導入したことで、採血管準備や患者確認および検査依頼照合などが自動化された。それにより患者1人あたりの採血待ち時間短縮につなげることで患者満足度の向上を図る。

結果の考察と今後のとり組み

昨年は採血支援システム導入により作業効率が向上したにもかかわらず、システム導入前より採血待ち時間が4分ほど延長しました。

その要因として挙げられた看護師の採血業務以外の業務(特に化学療法関連業務)などを含む中央処置室における看護師業務を見直し、実施することで昨年度より採血待ち時間短縮(9分→5分)に結びつけることができました。

今後も看護部と検査部で連携し、さらなる採血待ち時間短縮を目指していきたいと思います。

文責：臨床検査部検体検査室長

吉永 真人